

# 第1回エネルギー・環境イノベーション戦略策定 ワーキンググループ事務局説明資料

－ 温室効果ガスの抜本的削減を実現する革新技術－

2015年12月15日

# 1. 長期的視野に立った、抜本的な排出削減の技術戦略策定

## (1) 抜本的な排出削減の必要性

- COP21（パリ）に向けて各国の示した温室効果ガスの排出削減目標を積み上げると、2030年の排出総量を570億トンまで抑えられる。
  - しかし、2050年までに2度目標と整合的なシナリオ（240億トン程度）に戻すには、更に300億トン超の追加的削減が必要との指摘。（国連気候変動枠組み条約事務局 統合報告書 10/30）
- ⇒ **世界全体で抜本的な排出削減を実現するイノベーションが不可欠**

## (2) 2050年を見据えたイノベーションを実現する長期戦略の策定

- 地球温暖化対策推進本部（2015年11月26日）および第21回気候変動枠組条約締約国会議（COP21・11月30日）において、エネルギー・環境分野の革新的技術の開発に向け集中すべき有望分野を特定し、研究開発を強化すべく、来春までに「エネルギー・環境イノベーション戦略」をまとめる旨安倍総理から表明。

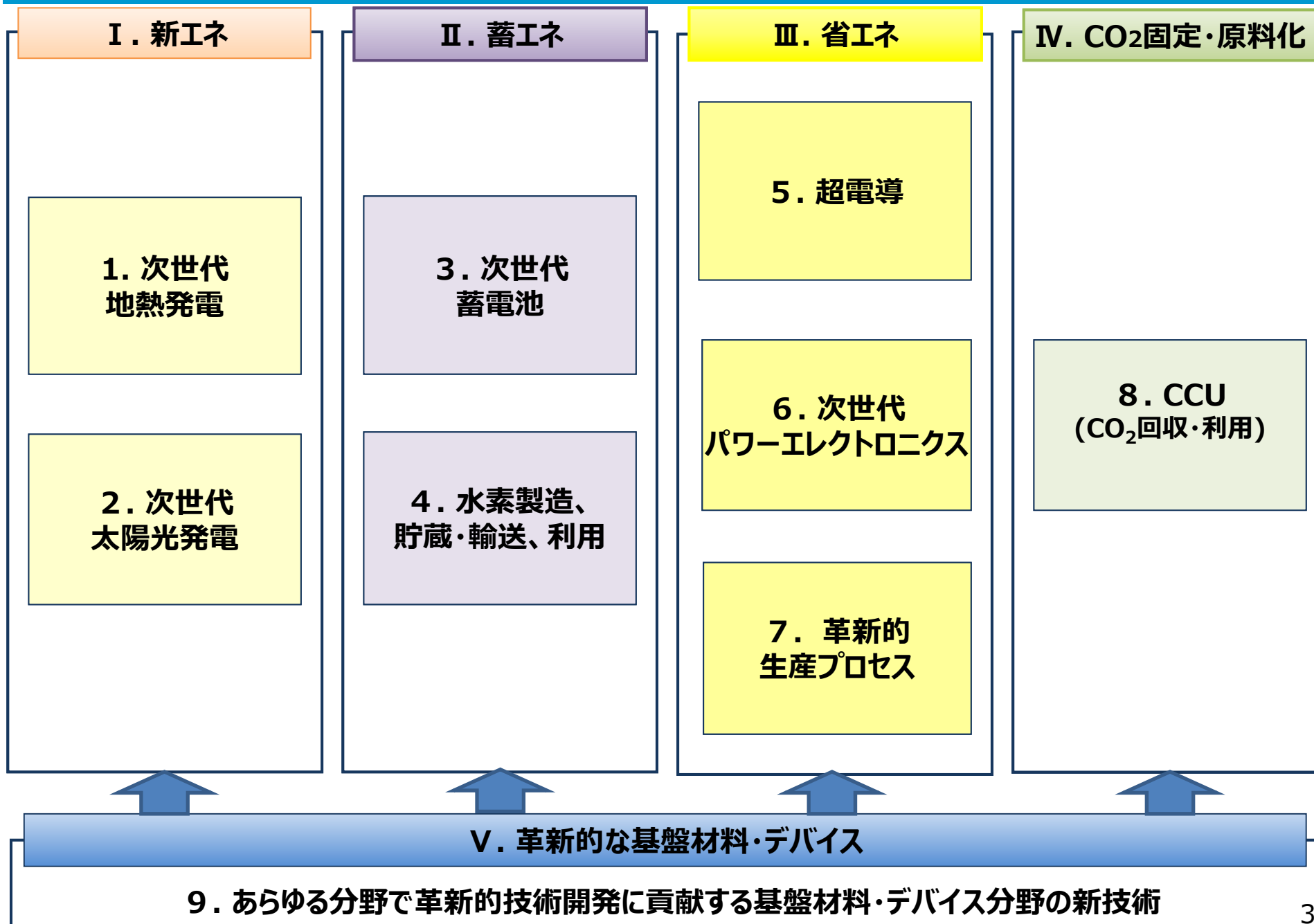
### 総理発言 ～抜粋～（平成27年11月26日 地球温暖化対策推進本部） （平成27年11月30日@パリ COP21）

気候変動対策と経済成長を両立させる鍵は、革新的技術の開発です。CO2フリー社会に向けた水素の製造・貯蔵・輸送技術。電気自動車の走行距離を現在の5倍にする次世代蓄電池。**来春までに「エネルギー・環境技術イノベーション戦略」をまとめます。**集中すべき有望分野を特定し、研究開発を強化していきます。

## 2. 戦略の対象となる排出削減技術の特定（評価軸）

1. 革新性があり、2050年を見据えた長期的視野にたって実用化を目指す技術
  2. 日本や世界に普及させた場合に温室効果ガス削減ポテンシャルが十分に大きいと見込まれる技術
  3. 日本発の、又は日本が優位性を発揮し得る新規性の高い技術
- ※ 技術の汎用性／地域適合性
- 日本以外の海外で有効な技術も対象

### 3. 対象となる革新技术候補の例



## 4. 戦略の具体化に向けての留意点

1. 各技術の開発及び普及の具体的な実現目標・成果目標の設定
2. 各技術の研究開発の進め方（官民連携、国際共同研究開発、海外展開、民間研究開発投資の誘発 等）
3. 大学・ベンチャー等が実施している独創的な革新技術の掘り起こし
4. 革新的な技術の組み合わせによるシステム化
5. 実用化加速に向けて、研究開発を集中的に実施するための枠組み

## 5. エネルギー・環境イノベーション戦略策定に向けた今後の予定（案）

1 1月26日	地球温暖化対策推進本部において総理発言
1 1月30日	COP21において総理発言
1 2月11日	重要課題専門調査会（WG設置承認）
1 2月15日	第1回戦略策定WG
-----	
1 2月中下旬	総合科学技術・イノベーション会議に報告 （検討体制と第1回開催結果）
1 月中下旬	第2回戦略策定WG （第1回指摘事項への対応、対象技術の絞り込み）
2 月中旬	第3回戦略策定WG （対象技術の技術課題や対応策の整理、とりまとめ（骨子）議論）
3 月	第4回戦略策定WG（とりまとめ）
3 月以降	重要課題専門調査会に報告 総合科学技術・イノベーション会議に報告